

100号特集 検見高の昔話

PTAの歴史はここから始まった



PTA新聞創刊号題字



たちへ」

歴史の1歩を踏み出した1期生より

物心ついた頃から女の子にもてたいと思い50有余年が経とうとしていますが、今もその高い志に変わりはありません。

学生の頃、何ら変哲の無い中庸な友人が何故かもてるので訳を聞いたところ、彼曰く「先ず一つに本人がカッコイイ事、次にまめな友人を持つ事、最後に自分がまめである事」と言うことで、彼にはまめな友人がいるとの事でいたってシンプルでの事を射る答えでした。

なるほど、自分には一は当てはまらない、次のまめな友人?いない。と言う事はおのがまめになる他ない、との結論に至りその努力の甲斐あつて今の奥様を娶る事が出来ました。めでたし、めでたし。

然し、その教えは恋愛に留まらずその後の人生の橋頭堡

「鳴かぬなら俺が鳴こうホトトギス」



1期生
(野球部OB会会長)
三枝 優量

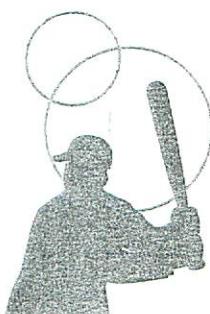
(足がかり、よりどころ、その後の作戦の足場となる拠点など)となりました。

文系に拘わらずエレクトロニクス、ケミカル事業に身をおく羽目になりましたが、先の教えを遵守する事が、先の教えを遵守する事でツキも味方し、能力以上

の成果を上げ、おまけにバル時代には業界でのスキルアップの転職を図る事も出来ました。

順風満帆、このまま定年を迎える幸運な晩年を送れるのかと思いつきや、派閥と言ふ予期せぬ悲劇に見舞われ再起不能かと絶望の淵にいた時に野球部OB会と言うホトトギスに救われたのでした。

かつては先輩風を吹かしこの命の恩人たちに片つ端から千本ノックを喰らわせてしまった事をこの時ほど後悔した事はありません。



今までのことを振り返ると、この努力に自己犠牲を厭わず、こそ本當は一番カッコイイ事なのかも知れませんね。

これからも検見川高校のカッコイイ、まめなホトトギスとして在れるよう鳴き続けていこうと思います。

う訳では無いのですが、今はOB会会长としてホトトギスの恩返しに励んでいます。

会を創設して未だ4年目ですが世代を超えて多くの分野で検見川高校の繁栄を実感しています。

我々OBとして努力し守るべきは、今後も継々と輩出される検見高卒業生に対し、この繁栄を束ね、検見高ネットワークを築き、社会に於けるブランド力を高めて検見川高校卒業生である事を誇りに思つてもらう事にあります。

今でこそ思いますが、その努力に自己犠牲を厭わず、こそ本當は一番カッコイイ事なのかも知れませんね。

これからも検見川高校のカッコイイ、まめなホトトギスとして在れるよう鳴き続けていこうと思います。

紙面を飾った栄光の物語



1977年ベスト16
(高校野球クラブより)



1980年ベスト16新聞記事



1981年初のベスト8新聞記事



1997年初のベスト4記事
(30周年誌より)

